

第 1 回 山口県 新たな時代の人づくり会議 議事録

日時：令和元年 5 月 22 日（水）13:30～15:05

場所：共用第 1 会議室

出席者（構成員）：村岡嗣政知事、楠正夫 委員、吉村猛 委員、岡正朗 委員、
加登田恵子 委員、三宅紹宣 委員、原田尚 委員、浅原司 委員

出席者（事務局）：総合企画部長（司会）、総合企画部次長、総合企画部審議監

<会議の概要>

【村岡知事】

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。令和という新しい時代がスタートしました。これからの未来を築いていく、あるいは地域を支えていくのは人であり、人づくりというのは大変重要なテーマであると受け止めています。一方、近年若者の減少が大きな課題となっています。この 30 年で、本県の 19 歳以下の若者の数、44 万人から 23 万人と半減しており、今後 30 年では更に 4 割減少して 15 万人にまで減少する推計になっています。人口が減少し、社会の担い手が減っていく中においては、新しい時代を担っていく若者を育てていく力を伸ばしていくということがますます重要です。個々の力を高め、様々な困難を乗り越えていく、そうした取り組みを今こそスタートさせていかなければいけません。また、私たちは第 4 次産業革命といわれる急速に進む技術革新の真っただ中に生きています。IoT や AI そうした技術の進展に伴い、Society5.0 といわれる超スマート社会が到来しつつあります。新しい技術を生かしたサービスや事業が日々、生まれる一方で、今ある仕事が消滅し、AI に代替される、そうした可能性も指摘されています。こうした変化の激しい時代にあっては、これをチャンスととらえて、新しい技術を使いこなし、新たなイノベーションを起こしていく力が求められています。これからの時代は今までの常識を超える将来の予測が困難な時代です。こうした時代に、山口県の未来を切り開いていくのは若者です。だからこそ私は若者が困難な課題に挑戦し、それを乗り越える力をはぐくんで、最大限に伸ばすことができるように県として若者を育成する取り組みを進めていかなければいけないと思います。本会議においては、経済、教育、歴史、文化、人づくりと、様々な分野の皆様と新たな時代に求められる人材とは何か、そしてそのために我々はこれから何をすべきかについてしっかり議論をし、今後県が取り組むべき人づくりの指針となる推進方針を取りまとめていきたいと考えています。更に方針の作成にあたり、技術革新を活かした教育の在り方など国の議論もしっかり取り込み、更に本県が明治 150 年プロジェクトとして取り組んできた先人たちの志や行動力を学ぶ取り組みや、本県の強みであるコミュニティスクールの活用などを図ることによって、山口県だからこそその方針として大きな時代の変化を乗り越え、山口県がフロントランナーとなれるように新たな時代

の人づくりに挑戦していきたいと思います。令和の時代がスタートした大きな節目において、新たな時代にふさわしい人づくりに向けて皆様方からぜひ意見、積極的な提言を賜りたいと思います。よろしく申し上げます。

【北村部長】

山口県新たな時代の人づくり会議設置要綱第5条第2項で議長は会長をもって充てるとされており、進行は会長に申し上げます。

【村岡知事】

早速議事に入ります。本日は新たな時代の人づくりの推進や新たな時代の人づくり推進方針のたたき台について事務局から説明します。その後、推進方針のたたき台をベースに新たな時代に求められる育成する人物像、学校教育・若者育成の充実に向けた取り組みに関して考えや盛り込むべき内容についてそれぞれの立場からご意見賜りたい。それでは事務局から資料について説明してください。

【永富審議監（事務局）】

事務局の永富です。配布資料について説明します。まず、資料1について説明します。1ページ目、本会議の設置目的です。人生100年時代やSociety5.0など新たな時代を見据え、明治150年を契機とした人材育成の取り組みを活かし、山口県ならではの人づくりの方針を作成するとともに、施策を推進する体制の整備を図ることとします。次に2ページ目、今後の取り組みの進め方についてです。本会議においては、各分野の委員の皆様から新たな時代の人づくりについて、ご意見をいただくこととしており、本会議を含めて今年度は3回開催を予定しています。それと並行し、中ほどの点線部にある有識者懇話会を開催し、知事が様々な有識者の方々から直接、ご意見、ご提言をもらうトークセッションという形で、それを公開で4つのテーマで開催します。そこでのご意見、ご提言をまとめて第2回の本会議で示し、取り組みの方向性、具体的な取り組みについてご検討いただきます。11月に中間報告をし、来年の2月から3月に推進方針を策定するよう進めます。この方針に基づき、来年度から、具体的な施策を展開していきたいと思います。続いて3ページ目、知事との有識者との懇話会のテーマと論点を記載しております。これからの時代に必要な資質や能力、学び、コミュニティスクールの活用、キャリア教育、歴史の人づくりへの活用などをテーマとします。4ページ目はトークセッションに参加予定の有識者を記載しています。ヤフー(株)会長の宮坂氏をはじめ、国の審議会に委員を務めている方で実際に人づくりの活動を行っている方、また文部科学省等にも協力をいただく予定です。この他、個別懇話会として、県にゆかりのある大学教授などに知事が個別に意見を伺うという形での懇話会を予定しています。5ページ目は明治150年を契機とした県の取り組みについてまとめています。県では平成29年度から、明治150年プロジェクトとして、若者育成プログラムを進めてい

ます。吉村社長、岡学長にもご協力いただき、若者とトップリーダーが直接対話をして、志を高める取り組みや、県内の学生と、県外の学生や留学生が意見交換を行う取り組みを進めてきました。また、PBLを活用した教育プログラムの推進として、学生が企業の課題について、解決策を考える課題解決型の教育プログラムを県内4大学43企業の参加によって取り組んでいます。こうした取り組みについて、今後の人づくりの取り組みの中で、更なる充実、ステップアップを図りたいと考えています。6ページは国における議論の動向について整理しています。先週5月17日に、国の教育再生実行会議で第11次の提言が示されています。国においても人口減少や少子化の進展、人生100年時代やSociety5.0の到来、グローバル競争の激化などの変化に対応し、活躍できる人材育成を課題意識としており、提言の中では2つの視点が示されています。1つ目が括弧1の技術の進展に応じた教育の革新です。技術革新が個別最適化された学びや、場所、時間に制約されない主体的な環境の実現に寄与すること、またICTが教育のマストアイテムとなっているという認識の下で、今後取り組むべき主な提言内容として、データサイエンス教育を含めた、基盤的な学力や情報活用能力の育成、強化横断的に実社会の問題解決を学ぶSTEAM教育の推進、教師のICT活用指導力の向上、遠隔教育の活用、AI、データサイエンス等の素養を身に着ける環境づくり、ICT機器の整備促進や、学術通信ネットワークである、SINETの学校への開放、などが提言されています。2つ目として、括弧2の新時代に対応した高等学校改革です。高校においては、一人一人が能動的に学ぶ姿勢を身に着けるとともに、文理をバランスよく学ぶことなどを通じて、Society5.0をたくましく生きる力を育成することが必要との認識の下で、普通科高校の文理系の枠組みの提示、文理をバランスよく学ぶ仕組みの構築、教師の校内研修の充実や、外部人材の活用、高校コミュニティスクールの導入推進、高校と大学や産業界が共同した地域課題解決を通じた学びの実現などが提言されています。この提言については村岡知事も委員となっている、中央教育審議会でも議論されます。本県においても提言内容については積極的に取り組みを進めていく必要があると考えています。7ページは教育再生実行会議に先立ちまして、文部科学省、経済産業省それぞれ検討したSociety5.0へ向けた人材育成、未来の教室とEdTech研究会との検討状況について整理しています。引き続き、資料2として、新たな時代の取り組み推進方針のたたき台ということで説明します。このたたき台は本会議の議論のベースが必要だろうと事務局の方からたたき台として示されています。まず1が育成する人材像についてです。技術革新と変化が激しく、将来の予測が困難な時代を山口県の若者がしっかりと生き抜いて社会の課題を解決する新たなイノベーションを生み出していくため、ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い志と行動力を持って地域や社会の様々な課題を解決し、新たな価値を創造できる人材を育成する人材像としています。次に2が学校教育・若者育成の充実に向けた取り組みとして、取り組みの方向性と取り組み内容について記載しています。括弧1ではふるさと山口への誇りと愛着を高めるとして、そのために将来の山口県を担う若者を育成するため、自らが育ち、育ててくれた山口への誇りと愛着を高め、自らのバックボーンとなる山口県人としてのアイデンティティを確

立する取り組みを進めることが必要です。括弧2は新たな価値を創造する力を育成するとし、4項目を設けています。①は地域や社会が抱える課題を発見し、他者と協働して解決する力の育成として、新たな価値を創造するためには、課題を発見する力、その解決策を考え、他者とともに行動を起こす力が必要としています。②は自らキャリアを構築する力の育成として、人生100年時代や技術革新により急激に変化する社会では学生時代の学びのみをもって生き抜いていくことは難しいと予想されることから、社会の変化に応じて、生涯を通じて自ら学び続け、キャリアを構築する力を育成する取組が必要としています。③はグローバルな視野の育成として、情報通信技術の進展によりグローバル化が進む時代では、異なる文化や歴史、価値観を有する人と共存し、世界規模で対応する姿や多様性を尊重する心をはぐくむ取り組みが必要であるとしています。④はAI等新しい技術を活用する力の育成として、人と技術が複雑かつ高度に関係する時代にあって、AI等の新しい技術を活用し、社会の課題と新しい技術を重ねて解決策を創造するための知識、発想力を育む取組が必要であるとしています。括弧3は児童生徒の志や可能性を実現し、地域や時代のニーズに対応した学びの場を作るとして、児童や生徒が自らの志を遂げる、その可能性を実現するために必要な学習環境の整理や、本県が抱える技術や課題に対応した学びの場の創造、また Society5.0を見据え、新たな技術を学びの場にも積極的に取り入れ、児童生徒一人一人に最適化された学びを提供するなど、仲間の能力を最大限引き出す、教育環境の整備が必要としている。括弧4は新たな学びの基盤を作るとして、社会の変化や技術の急速な進展により、一人に求められる役割や資質、能力も変化しているので、新たな時代に求められる教員の養成を行います。また、この推進方針に基づき、取り組みを関係者が連携して、継続的に進めていくためのプラットフォームの整備を進めることが必要としております。以上を議論のたたき台として示しています。追加するべき項目、取り組み、修正等含め幅広く意見賜りたいと思います。その他、参考資料として2つ、参考資料1が現時点での県の関連の事業を取りまとめたもの、参考資料2が本県教育の現状と課題を整理しています。こちらの資料説明は省略しますがご参考にしてください。事務局からの説明は以上です。

【村岡知事】

事務局から新たな時代の教育づくりの推進方針の検討項目などについて説明しました。それではお示しした推進方針のたたき台をもとに、ご意見、ご提言をお願いします。経済、教育、歴史、文化、人づくりと各分野の皆様にお集まりいただきました。最初に楠委員からお願いします。

【楠委員】

私は山口県経営者協会の会長、株式会社トクヤマの代表を務めています。そういった意味で、先ほど知事が言われた経済界の立場から人づくりにどういうことが求めているか、述べていきたい。今後の人口動態をみると、人口の減少、構成比が全く変わるということで、

数字を目の当たりにすると、ぞっとします。そういった中で、新たな時代の人づくりということで、今の環境は技術革新がものすごく速いスピードで行われており、IoT、AIは待ったなしです。それから、環境問題、炭酸ガス問題ということが大きな世界の使命です。日本は遅れ気味と問われている時代ですが、環境に対する問題を克服しなければ将来の持続可能な事業活動、とりわけ山口県は化学、通信、重工系が多い産業で第2次産業が多いので、この克服が待ったなしです。そういった観点から少子高齢化、急速するIoT、AIといった技術の人材、加えて新しい炭酸ガス問題を克服するということが大変求められています。産業界では聞く話では、日本の若い人は世界へ出ていく人が減ったといわれます。私も先日、バンクーバーへ行ってきたが、かつては日本の学生を含めてたくさん人がいたが、今はいない。したがってNHK番組もやらなくなり、中国、韓国に押されています。中国は多いのは当たり前だと思うが、韓国は日本より人口が少ないということ踏まえると、日本は世界に行く若者が減っていくことが大変危惧されます。当社のことを下敷きにして話すのは恐縮だが、5か年単位の企業の将来像を描くということで、ビジョンの中、あるいは価値観の中で、これは化学を通じて世間の役に立つ、暮らしの役に立つということだが、目標としては2025年には先端材料で世界のトップ、先端材料の中では半導体系中心の、あるいは歯科材料、眼鏡材料など機能材料で世界のトップ、それから今のベース事業である化成製品やセメントの伝統産業、これは日本のトップで生き残る。当社は山口県をベースとする製造会社であるのでぜひ勝ち抜いて山口県での貢献を果たしていきたい。それを支える価値観を決めており、この価値観は業績あるいは人事の評価にも連動しているが、毎年目標を決めています。目標である成績以外の価値観としては顧客満足をどうするか、顧客満足をいかにするかというのは会話能力がいかにかできるか、あるいは専門レベルではいかに深いか、それから、会話なのでリベラルアーツがどうできるか、世界ではリベラルアーツが求められています。そういう全体の会話ができる人が非常に尊敬されます。それから、内輪の中では創造性のある人材、クリエイティブな創造できる人間をどうするか、ということも求めています。それから、根気と遊び心、物事は簡単にできることではない。汗と熱と意思と本気があって初めて物事がクリエイティブなことで、根気とともに遊び心と、自由にできる発想を取り入れながら、根気良く仕事をしていく。そういったことを評価の対象にしながらそういう価値観を求めています。会社でもそうだが、日本の全体の若者は特に会話する力が最近減ったと思うので、どのように会話力を高めていくかということも期待したいと思います。それから、社長は入社式では失敗を恐れるなどと言うが、失敗という定義も説明してあげないと、難しい時代だと思います。今の世代は私から見ると、正解を出すことを一生懸命、決まった答えを一生懸命暗記してきました。世の中には答えは決まったものはないし、時代とともに正解も変わります。ですから、ディベートする力の中に、新しい価値が生まれてくるし、その中に、成功が生まれてきます。失敗は金銭的な大きなダメージを受ける失敗もあるが、若者がする挑戦意欲のある失敗はおおいな栄養素でもあります。失敗の陰に成功があるという価値観が大事なのではないかと思えます。成功の陰に失敗もあるというの

ではなくて、失敗を積み重ねる中に成功が見つかると思った方がいいのではないかと思います。一番いけないのは真面目な顔をして、何もしない、挑戦しないということが、企業にとっては一番衰退する原因ではないかと思っています。それから、経営者協会等によりますと、今大企業、地元で支えていただける中小の方問わず、人は少なく困っています。特に中小の皆様も人が集まらないし、事業経営者も増えていけない現状があります。世間の風潮あるいは親の価値観、親の安心というのがあるかもしれないが、大きい企業だけがいいわけじゃない。小さくても面白い企業があります。個人の価値観も変わってきているので、個人の価値観からするとむしろ、中小の中に面白い企業があるのではないかと思うので、いろんな企業のスタイルの、紹介する場面をどう作っていくかということも大事ではないか。それから、世界と戦うことからすると、先人に学ぶということは大事だと思います。先人に学ぶ一番いい点はプロセスにおいてどういう考え方をしたのかということところが先人の中にいっぱい事例があるので、決まったことはない。むしろ、先人を学びながら、歴史を学ぶことは、人の心は動じない、動じない心を持つということは歴史を学ぶのが一番早いのではないかと思います。それから、日本人は特に語学レベルが苦手ですので、英語力も世界とやっていく大きなカギです。したがって、言葉の障害にも動じない、歴史を学びながら動じないことが二本柱で重要だと思います。それから、新しい技術を呼び込むことで一番大事だと思っているのは、技術に限らず、興味と観察力をもつ習慣が大事です。習慣というのは若いうちから毎日観察していく、同じものを見て同じように変化をとらえる、あるいは他人のやっていることを見て自分も努力をする、競争する。毎日現象を見ていれば原理も発見する、あるいはよく観察すれば美への追及もできます。それから、日々感じるところで自然への畏敬とか大切さとかいろんな意味で分かってくると思います。観察力をどのように日ごろの習慣としてつけていくかということが大事だと思います。会社自体も人づくりが一番お金と時間で難しいことを感じています。人づくりのベースになるのは、先ほどに加えて柔軟性と素直さ、挑戦、健康財産をベースに、そういったものの大切さをうたって、日本のあるいは山口県の発展につながっていくのではないかと思います。

【村岡知事】

ありがとうございました。経営者の立場から、様々な若者に必要な能力についてご提言をいただきました。次に吉村委員をお願いします。

【吉村委員】

今経済界からの代表として、楠委員が言われたことと重複することもあると思います。山口フィナンシャルグループでは金融を本業としていますが、変化が激しく、フィンテックを中心とした新興勢力が次々興る、変化の激しい中で、どのように人材を育てていくかというのは悩んでいるところです。そういった意味で我々の悩みを説明することになるかもしれないが、意見を述べたいと思います。10年前、我々の金融がこれだけ変化するというのを

予測した人間はいなかっただろうと思います。そういった意味で金融のみならず今社会の変化は非常に不透明感が増していて、何が起るかわからない、何が起ってもおかしくない状態になっています。それは技術の進歩であるとか社会の価値観の変化でもあると思っているが、一番大事なものは、リベラルアーツ、人間としてどのような価値観を持つかということを決められる人材、そういったものをしっかり体の中に植えつけられる人間が、根っこに必要、それを人間力と答えるのか教養というのか別だが、そういったものがまず必要になります。決められた路線があるわけではなく、安定した道がこれから先あるわけでもなく、その変化に対して価値観を持って軸をもって進めていく、そういった生き方ができる人材が必要になってきます。今からの社会の変化をどのようにして捉え、どのようにして生きていくか、自らいろんなものを観察しながら好奇心を持ってやっていくということがこれからの人材育成のベースになります。そういった意味では志を立てるとというのが非常に重要な時代が来るのではないかと思います。この社会の変化の中で、今までは出てきた課題を解決しておけばよかったという時代。今の銀行がこれからどうして生きていくのかということを考えるときに、これからの課題は何なのか、その課題について答えがあるのかわからない、どうやったらいいのか全く分からない状況の中で、その課題を自ら見つけて答えのないプロセスを歩んでいくことが志に繋がって、きちんとしたプロセスが描けていけるような人材を欲しています。最近、3つのDということを社内では言っています。これから3つのDが重要になっていく。課題を設定し、課題を解決するプロセスの中で、1つはデジタルの世代、AI、ITといったデジタルをいかにマスターし、活用していく。その能力の差がこれからの人材、人間の生き方に関わってきます。今の30代後半からミレニアル世代と言われているデジタルネイティブの皆さんが、これからの社会の主流を占めていくときに、デジタルを使った物事の考え方というのが経済界としてできるかどうか重要です。それから2つ目のDはデータです。ここにもデータサイエンスという言葉があるが、データサイエンティストは決定的に日本で不足しています。我々金融もお金の力よりも、データの力でビジネスを開拓していく方向にかじを切りつつあります。データこそ産業のコメであるという感じに変わってきています。このデータをどう処理していくか、データをどう生かしていくか、ということがこれからできる人材が必要になっていく。3つ目はデザイン力。今までは論理性が重要であったが、今後は逆に大きく物事を捉えて、こんなことが出来たらいい、という直観、妄想力、想像力が重要になってきます。そういう意味ではこれから我々の会社も含めて人材育成はこの三つを柱にやっつけていこうとしている。先日シリコンバレーに行ってきたが、シリコンバレーのデジタル、データ、デザイン力は一つ抜けている。いわゆるベンチャーというものが拡大しているところだが、日本でもこのベンチャーに進む若者が徐々に増えてきています。ベンチャーは、昔はどちらかというとお金儲け、六本木ヒルズでワイングラスを傾けるというイメージの時代があったが、今のベンチャーは社会的課題を解決していくことに注力しています。その社会的課題を解決しながらしかも経済的価値も上げていこうという、両立をしていく、いわゆる論語と算盤だが、そういったものに踏み出そうというベンチ

チャーがたくさん出てきています。私も今たくさんベンチャーに投資をしているが、ベンチャーの社長にあうが、30歳前後の若い人材で、一番最初に言うのが、私たちのビジネスは社会的課題について解決するために会社を作ったというのが一番最初のビジョンとして出てきます。それからビジネスモデルを組んで経済的にこれくらい儲かっていくという話を我々投資家からお金を集めて運用していく、そういう新しい時代のベンチャー人材がたくさん出てきています。それもすべてデジタル、データ、デザイン力を駆使した話を聞かせてもらう。新しい時代の流れの中でどういったところに力を入れていくかということ、基本はリベラルアーツ、人間力をどうやって作っていくかということ、今のこの環境下においては、デジタル、データ、デザイン力が必要になってくるのではないか。そして、最後になるが、一番ベースになるのが人間力になるが、その人間力の中でも特に挑戦する力、挑戦し、失敗し、また挑戦するというようなタフな精神構造と失敗を恐れず挑戦していくというたくましさのベースにないといけない。どちらかといえば評論家的になって行動しない世代が何年か続いていると思うが、そういったものを乗り越えて挑戦をし、失敗を恐れず新しいものに向かって、創造していく力を活かす人材が求められると思います。我々は今、会社でも、行動するもの来たれ、評論家はされ、ということをやっています。そうしないと今の経済界の変化、企業の変化にはついていけないと思っています。そういった人材は一朝一夕にできるものではないので、世の中は変わってきた、安定した道はない、というような価値観を十分持った人材が生まれていくことを期待しています。

【村岡知事】

ありがとうございました。動きの激しい金融業界の中で、リベラルアーツ、3つのD、それを支える挑戦する力などについて指摘をいただきました。それでは、教育界の方から山口大学学長の岡委員をお願いします。

【岡委員】

山口大学は200周年を迎えた2015年に地域とともに、時代とともに維新の息吹を今、山口から世界に、というキャッチフレーズに教育研究、地域貢献に取り組んでいます。その立場から山口県の新たな時代の人材づくりについて、意見を述べたいと思います。第一に現在文部科学省の地の拠点大学による地方創生推進事業、COC+を展開して、全県を挙げて優秀な人材、山口フロンティアリーダーを育成して、県内に提供する活動が4年目を迎えています。県内12高等教育機関が協働し、県を含めた、全20地方自治体、企業も127社、9企業団体、総数168施設と国内最大の共同機関で事業を進めています。これにより、学生は積極的に山口県を知り、果敢に課題解決に取り組み優秀な人材として成長しています。楠委員、吉村委員が求められる人材が、この中でも着々と育てられているのではないか、これが県内就職に結びつくかどうか、今年4年になりましたのでそれは結びつきますが、山口県ならではの教育をしていると思っています。したがって今年度の文部科学省の支援は終了

するということになっているが、今後全県をあげてCOC+事業に引き続き取り組むべきではないかというのが私の希望であり、検討をお願いしたい。経団連との話し合いにより、政策提言として、COC+事業の後継事業については政府に申請しています。18歳人口が減少する中、各県における高等教育をどのようにするかは重要な課題であり、近々、文部科学省から国公立大学による高等教育地域プラットフォームのガイドラインが発表されます。これに関連して大学と連携法人推進制度（仮称）が、これについても認定基準、認定手続きについて、整理されるということが、報じられています。このように県全体で新たな人づくり、Society5.0に向けた人づくりを産官学で協議して、県全体の高等教育を改革することが求められているし、そうでないと、これから乗り切れないだろうとされています。山口大学を見ると、1年生が約2,000人いるが、全員が知的財産教育及びデータサイエンス教育をマストで受講する唯一の国立大学であり、教材づくりや教育方法の開発、専門課程、大学において、専門家の養成に取り組んでいる状況です。大切なことは、学習指導要領が改定されるということを知っており、新たに小学校から知財教育及び、データサイエンス教育が加わるということで、大学との連携が必要となります。18歳人口の代わりに留学生をできるだけ多く引き受けたい、社会人教育、社会人の学びを積極的に行うのが大学の大きな使命とされており、それに取り組んでいます。今後県内の高等教育を含めた教育の在り方について、検討いただきたい。一方、このような状況の中で、資料にもあるが、県内高校生の大学進学率が全国平均で55%を超えている状況だが、県内が44%程度。10%以上の差をつけられているというのは事実です。また、県内高等学校からの県内進学というのも残念ながら低い状況であります。こういうことをしっかり問題提起したいと思います。このためには県内の高等教育機関と小中高校などの教育機関及び山口県の教育庁が連携した実質的な取り組みが不可欠と思われるので、検討いただきたい。グローバル化に関しては、県内の留学生が増えているし、留学する学生も増えています。山口大学を例に見ると約550人の学生が毎年留学しており、留学生も留学ビザで来るのが600人を超えたということで、全体では700人を超える学生がいる状況です。この中で以前より山口地域留学生交流推進会議というのが設置されており、この中に県も入って、産官学で協議をしているが、留学生の県内受け入れ、県内教育機関との交流、すなわち留学生が小中高といったところに交わっていく、そうしたことを工夫することで、日本人以外の人に触れるというのが非常に需要だと思っています。最後に、先日知事より医師確保についての要望書を直接いただいています。皆さんご存じのように山口県では若手医師が減っており、医師の平均年齢が52.8歳と全国最高齢になってしまっています。大学も文部科学省に来年度入学過程の中で107名いるが、地元枠を10名増やすお願いをしており、了承されています。来年度の入学は定員107名の内、45名が地域枠関係、地域枠が25名、緊急医師確保枠が5名、地域医療再生枠が10名となり、県内からの進学は増えるだろうと考えています。これを行う前に、今年は実は44名が山口県から山口大学医学部に進学しており、やらなくてもこのくらいの人数がすでに進学しています。そういうことも含め、これだけではいけないので、新病棟および

新しい教育棟を活かし、これからさらに他県からの学生も山口県に残るように努力していきたいので、ご支援いただきたい。最後に、私どもの大学で4分の1しか山口県内からの進学はなく、4分の3が他県から来ております。ここに新たな時代の推進方針のたたき台と書いてあり、県内の出身の子どもの人づくりは大賛成だが、大学になると県立大学も半分くらいは外から来られていると思うので、外から来た若者をどうやって大学で教育をして、地元に残すかというの、COC+をやっているならばそういうこともできると思うが、こういう取り組みが必要。COC+はもともと県内企業のどういう人材が必要か、という意見をもとにプログラムを作ったと記憶しており、実際そのようになっているので、こういう教育プログラムの中にぜひとも産業からの提言を取り入れて、産業連携でのカリキュラム、アカデミックでのカリキュラムをうまく統合していくことが実際に今求められているので、この点については早急をお願いしたいと思います。

【村岡知事】

ありがとうございます。COC+の関係は大変熱心な取り組みを、岡学長を中心にされているので、是非継続していただき、地域いい影響があるように、県も頑張っていきたいと思えます。また、山口県の医師の平均年齢が一番高いということで、これから医者になる人を県内に作っていくことは、力を入れていきたいと思っています。次に山口県立大学学長加登田委員をお願いします。

【加登田委員】

4つの点から意見を述べたいと思います。一つは、予測不能な時代における人材育成とは何かということが社会全体に問われている。知事も入られている中教審に、私も大学界の位置に参加させていただいた。昨年11月に出た中教審答申は、戦後の中で一番インパクトのある答申だといわれている。それは今まで全国、日本の成長を支えてきた目標である人材像の大きな転換を図るという意味で、インパクトがある。どういう人材を作るかというのを国でも出せない、それはどういう社会になるのか予測不可能だから、というのは、丸投げされたような気持ちがする、大変な時代だと思います。私は昨年から新米の学長として、学術会議の方で勉強させていただくと、予測不能な時代に必要な人材はまず、基本的な知識や理解、2番目は技術やスキル、そこまでは従来の基本的な知識と理解で、成長にも必要とされているベースです。それに加えて、課題設定、課題解決、それに対して文理融合で柔軟に対応する。いわゆる勉強するテーマを見出し、その解を、どこかにある正解を見つけるのではなく、解を作るという営みをする。4番目は最近のベンチャーの最先端に出る若者が何をするかというと、役に立つことをする。自分の生き方の価値観を求めた仕事の仕方をする。これは東北震災等のボランティアに若者たちがたくさん参加したということからも、経済成長期のように豊かになるということではなくて、意味のある人生を送りたいと、考えている若者も増えてきている。その意味の在り方を探ることが、新たな予測不可能な時代

を作っていく可能性にもつながる。この4つの点をわたくしども、学生団体でも議論をしている最中です。その知識や量は今までの一直線になっていた受験社会の中では、知識量を競っていたが、ある学長の研修会では大学は、新しい知識を得るところでは、もはやないという意見も出ています。情報としての知識は、どこにいても、ネットがあれば高校生であっても中学生であっても得られる、開かれている。では高等教育機関から大学はどういう機関かという、各地が集めた知識をどういう風にまとめるか、デザイン力、文理融合、問題解決に対してどう使うか、それを協働しながら、話し合いながら、解を作るところに使うための知識。ただ、一方で小中高の基礎教育に関わるが、デジタル化するような情報化ということが、必ずしも思考言語を深めない。携帯電話など連絡も短くなり、ショートメールのようにになっているが、記号化していて、知っているような気持ちになる。しかしその知識をつないで、思考するというところに必ずしもつながらない。例えば読書離れ、文章を12000字以上書いたことがない、自分の感情を表現する手紙を書いたことがない、そういった先ほど人間力ともおっしゃったが基本的な人間としての思考力や考察を深めるための読み書きのところ、そこがまだ問題だと思います。英語等の国際言語のスキルとして、コミュニケーション力として、今大学のリベラルアーツでは、日本語運用能力をきちんとしないと、その上に専門性は身につかないとして、リベラルアーツの見直しには日本語言語の見直しも入ってきている。それから、言語コミュニケーションについても、おそらく通訳機器というのはどんどん発展していくと思うが、生でコミュニケーションするための、コミュニケーション力としての言語であるとか、間違いがわかる知識がなければいけない。そういった基本的な読み書きは、きちんと小さい時から積み重ねていく必要がある。2番目にそういった予測不可能な時代を生きる基礎力を活かすことと、地方創生の責任を担う者たちとして、地域を支える人材をどう作るかという課題が2番目。先ほどの社会的意識、役に立つということをかかえにふるさとに閉じ込めることが良いか、住んでいるところに閉じ込めることが良いのかは分からないが、我々の生活を支えている地域とやりがいや社会的意識をどう結びつけるかということが次の教育課題ではないか。吉田松陰先生を斜め読みすると、最初に出てくるのが、志を立てろ、ということと、その志が社会的意識、社会貢献ということに訳されるのではないか。若い人たちは豊かになるためではなく、社会から必要とされている人材である、ということを感じ、教育することが必要。それから、今日は大企業の経営者が見えていますが、本県のGDPを挙げているが、かなりの少数の大企業であり、中小零細企業が出ない。それがグローバルな企業と競争しなくてはならないが、大都市部より地方の方がより起業するパワーは必要とされています。情報化が進むと集約されたところに、東京に行かなければできないことではなく、地方でもできることが広がるという可能性も含んでいる。Mirai365と県でも女性起業家セミナーと女性の起業促進についていろいろご尽力いただいておりますが、政策銀行の方と話したら、起業のための種をまくことは、どこもやっているが、山口県の女性起業家セミナーは10年続いている起業の率が高い、定着率が高い。それは評価されており、民の力を強くしなければいけないが、それを支援す

ることが効果的であるということも少しずつ出てきたのではないかと。できれば女性だけでなく、若者が都会に行きたいという気持ちは抑えられないかもしれないが、山口だからこそ、例えば海外留学するチャンスが東京のマンモス大学よりも大きいとか、小中高と繋がっていく、チャンスがあるという仕組みを作ることが地域を支える人材を育てるスキームとしては重要。3番目は、山口県は実績があるが、社会資源や自然資源という地域資源を生かす教育を積極的に進める。20数年子供会をやっているが、少年自然家、自然の中で観察眼やサバイバルの力、自然環境に対する思い出を総合的に実感する自然教育というのは全国で先進県でした。秋吉自然の家とか、昭和2、30年代から先行して山口県では自然環境を活かす先進的教育を進めてきました。OBSの導入などもあります。そういった自然環境、社会環境を活かす教育システムをもっと山口県らしさとして、活かしてはどうか。最後に、県大としては今後の学部構成等も考えていかなければいけないが、少子高齢化の先行地域として、人口減少の先行地域として、課題が大きい地域だからこそ、県民の生活の質を向上するために資する専門家の人材を養成するということをターゲットとしています。それをライフインベションリーダーと名付け、県民の生活の質を良くする、必ずしも量ではない。長寿であれば健康寿命を延ばすであるとか、観光人材も、京都とは異なるありかたを発信できる人材、そういったライフインベション人材を養成するように力をつけていきたい、改革していきたいと思います。最後に、具体的な課題はこれから議論が進むと思うが、小中高、特に高校のレベルアップというのが課題である。山口県は大学進学率が低い県で、今までは中堅の工業高校を中心とした、人材がこの産業社会を支えてきたが、今後の20年間はそれで耐えるのか。そこをシビアに見直す必要があります。それから、留学生は単に日本に勉強に来るのではなく、日本に就職したいという要望をもって、またはする必要があつて、留学する学生も増えている。県大は学部も限られているので、留学生は文化交流のレベルでしか、山大のように寄与率は高くないが、県の税金を払っているから、県に住民票のある日本の学生を閉じ込めて教育するというだけでなく、積極的にこれからの産業を支えていく留学生の登用の仕方を経済界のも皆様とよく協議の上、留学生をどう受け入れていくのか、どういう産業に引き入れたいのかということも含めた視点も必要になります。

【村岡知事】

ありがとうございました。これから求められる人材と、地域資源を活かす、あるいは地域の課題に対応していく重要性についてお話を頂きました。続きまして歴史文化の分野で、広島大学名誉教授の三宅委員お願いします。

【三宅委員】

県史編さん委員を務めております三宅です。まず県が最初に人づくりに取り組まれようとしていることに、非常に感銘を受けている。長州ファイブという漫画を作ったが、主人公は

日本の工業教育を切り開いた山尾庸三にしています。山尾は明治の初年に留学から帰って工学教育を起すべきと建白した。そうすると、日本に工業がないのになぜ工学教育が必要なのかという反対論が起こった。それに対する山尾の反論は、例え今は工業がなくても人を育てれば、きっとその人が工業を興すはずだと工学教育に取り組んだ。それが後の産業革命につながった。まず人づくりが非常に大事です。次にその方法だが、山口県には明治維新という非常に優れた歴史遺産がある。これを活用して、歴史に学び、考え、郷土を愛する心を育てるということが非常に重要になる。その取り組みはこれまで様々な機会を通じて、講演、セミナーが行われてきているが、これでは対象となる人数が限られてくる。点を面に広げていく必要がある。学校教育の場で郷土史教育、郷土を愛する心を育てるような教育をすることが期待される。鹿児島県は明治150年を記念して、冊子を作って3万部印刷した。県から中学校2年生に全員配布している。おそらく授業で取り組まれたと思うが、実践記録報告書も出て、それが共有されている。こういう風なものを作っておけば、本人がまた自主的に勉強することもでき、今後の、後々の代にも残っていく。方法としてこういうことも考えられたらどうかというのが方法論として一つあります。こういった教材を作るためには基礎研究が不可欠なので、人物に関する研究についても深めていく必要があります。吉田松陰に関する本はたくさん出ているが、戦前に編集された吉田松陰全史の域を出ていない、使われている資料に新しい資料は付け加えられていない。そうすると戦前に編集した制約のために海外に関する資料が入っていない。吉田松陰は海外について熱心に勉強したが、全史には入っていないことから、場合によっては海外を知らないで不法に攘夷をとらえたと勘違いされるような本が出回っている。そういうことを正して、正確な人物像を研究していく必要もある。そういった成果を啓発していくわけだが、その在り方も、理想的な人物はこうだった、という形でなく、発問で展開していく。あなたならどう考えますか、という手法での教材開発を行えば、自ら考える人材を育てる、それによって郷土への愛着を自ら深める契機になることが期待できるのではないのでしょうか。基礎的なことだが、実は長州藩の資料、藩庁の実務文書がほとんど散失せずに残っており、全国的に稀有な存在です。薩長といわれるが、薩摩の資料に比べて雲泥の差があります。そういった資料を保存、活用していく。国は資料のデジタルデータ化を進めている動きの中、県としてもデジタル化して後世に伝える。さらにそれをインターネット公開して発信にもつなげる。それが学術研究、歴史研究の下支えになることが期待できるのではないか。様々な具体的なことは想定できるが、長くなるのでこのくらいで終わります。

【村岡知事】

ありがとうございました。歴史に学ぶことの重要性、とらえ方、教育の仕方について貴重な提言をいただきました。続きまして人づくりの関係で人づくり財団の原田委員お願いします。

【原田委員】

山口県人づくり財団の原田です、よろしくお願いします。山口県人づくり財団の具体的事業について、少し説明します。やまぐち松陰学校と維新の志セミナーですが、子供や若者に対する取組みの事例です。郷土の先人の志や生き方を通じて故郷を愛する心、チャレンジする態度、体験活動、グループ活動を通じて、関係づくり、コミュニケーション力を学びます。今回発表される人づくり推進方針は、我々ひとづくり財団に、方向を示すものと感じている。そうした期待を込めて、意見を述べさせていただきます。まず、資料2のたたき台に記載されている育成する人材像、力についてはこれからの時代に必要なものであり、たたき台の方向で進むことに賛同します。その上で、これから取組の中で気を付ける事項を2つ申し上げます。まず、たたき台に示されている力を確実に育成していくためには、長期的な視点にたって、小さいころから発達段階に応じた取組みを連続的、継続的に行っていくことが大事である。例えば幼少期にいろいろな体験を通して、自分の興味関心のある事柄を見つけ、次の段階ではその事柄を学び、深く追及していく。更には自分自身で目標を立て、仲間と楽しみながら、目標に向かって取り組んでいく。そうした体験、学びの機会を学校だけでなく、家庭や地域社会でもできるだけ多く用意をして、子供たちが経験を積み重ねていく。その中で、主体性や行動力が周りの人と協力する態度、そういったものが、地域課題を解決する力、自らキャリア構築する力などを身に付けるうえでの基礎的な力になる。そのような力を身につけた子供たちがコミュニティスクール活動に参加し、大学に入りPBLの取組みをすることにより、育成しようとする人材像や能力などがより高いレベルで確実に身につくことができる。山口県では小学校から高校までコミュニティスクールがあり、社会総がかりで地域連携教育の推進体制が既に出来ており、そうした特徴、強みを活かしてベースとなる基礎的な力や態度から、発達段階に合わせてしっかり育成していくことが山口県ならではの特色ある取組みにつながる。2つ目として、推進方針に基づく具体的な施策が来年度以降始まることになっている。その取組みに対して継続的な検証、見直しをしていく体制、仕組みづくりが必要。ひとづくり財団でも取組みに対して保護者からアンケートを取っているが、事業の成果、効果を客観的に評価することは難しく、有効な検証改善に結びついていないと感じている。人づくりはこうすれば満点、正解といったものはなく、長期的な取組みの中で、専門的な知見も活用し、検証改善を繰り返し、内容を深め、効果を高めていくことが大事であると考えます。

【村岡知事】

ありがとうございました。発達段階に応じた取組み、PDCAについてお話を頂きました。それでは最後の浅原教育長お願いします。

【浅原委員】

教育長の浅原です。よろしく申し上げます。先ほどより貴重なお話をいただきありがとうございます。大いに参考にさせていただきたいと思っております。まず、私の方から2点ですが、育成する人物像として述べさせていただきます。先ほどからお話があるように、これからはIoT、ビッグデータ、AIなどの技術革新が進む中で、Society5.0の時代が到来する、さらにグローバルな競争が激化する時代といわれています。社会や産業や生活環境の変化に対応できる資質や能力を身に着けた生徒子供、他者と連携しながら新しい時代を生き抜く人材の育成が重要と考えております。山口県教育委員会の現状は、昨年10月に教育振興基本計画（山口県版）を作成し、育成する人物像を示している。これは山口っ子の姿、子供の姿で示しており、3つ掲げている。1つ目は高い志を持ち未来に向かって挑戦し続ける。2つ目は人徳体の調和のとれた生きる力を身に着けるとともに、他者と共同しながら力強く生きる。3つ目は郷土に誇りと愛着を持ち、グローバルな視点で社会に参画する。こういった子供たちの姿を掲げて、子供たちの育成に取り組んでいる。こうした人物像を定めた背景があり、本県は古くから教育を大切にしてきた風土があり、過去、防長教育とも言われたが、特色として、古くから豊かな先見性があった、進取の気質があった、あるいは質実剛健の機運、郷土を愛し、郷土に奉仕する精神、加えて一番大切なところは、若さに期待し、若さに託してきた優れた教育風土があるといわれている。これが本県の目標、育成する人物像にも反映されている背景になっている。先ほど Society5.0、IoT、AI ということを行ったが、そういったことに対応できる、グローバルな人材を育てることに全力で取り組んでいくことは当然であるが、ベースとして子供たちに思いやり、優しさ、正義感、倫理観を大事にする視点を忘れてはならないと思っています。たたき台の学校教育の充実であるが、先ほど原田委員からコミュニティスクールについて話があったが、本県では来年度は全国に先駆けて県立、公立の小中高、特別支援学校全てがコミュニティスクールになる予定であり、今後は校種間の連携により、山口型の地域連携教育を一層推進し、故郷への誇りと愛着を育み、そして地域の課題を発見し、解決する人材を育てていきたい。そういった中で新たな時代の人づくりを進めていくには、まずは学校で直接子供たちに接する教員の資質能力の向上が大切であり、教育の質を高める ICT 環境の整備といった学びの基盤を作ることも重要であると考えます。まず教員については、優れた人材を確保できるように教員の養成段階、県内大学と連携し、高い志を持った教員志願者の養成、採用後にはコミュニティスクールの仕組みを活かしたユニット型研修の充実、山口県教育支援センターの活用、ひとづくり財団との連携を通して、教員一人一人が、教員生活全体を通して、学び続けていく効果的な研修の体制が大切である。ICT 環境であるが、Society5.0 の時代に AI、ICT の技術を使いこなし、新たな社会や生活を創造することが求められている。また先端技術を活用することによって、地理的制約を超え、様々な人々と共同的に学ぶ、一人一人の能力、適性に応じた学びを提供していくことが可能となる。今後遠隔教育、遠隔研修が実施できるように ICT 環境の整備に努めていきたい。先ほど2人の委員から高校生の大学の進学率が低いという話があった。山口県の普通科の入学定員の割合は全国37位、職業系の学科は全国7位、工業系の学科に

限ると全国1位である。高校の学科編成がそうなっている現状がある。就職の願いで企業を回る中で、それでも人材が不足しているという状況もあることは知っておいて頂きたい。最後に岡委員より医者の話があったが、医療に携わる人材の確保は大きな課題になっており、教育委員会としても生徒の希望を叶えることや本県のニーズや課題に対応した人材の育成という観点からも、学校づくりが重要と考えています。

【村岡知事】

ありがとうございました。教育委員会で目指す人物像や、そういったものを進めていく環境整備、基盤づくりについて話をいただきました。第一回目の議論はこのあたりでとじさせていただきますが、最後に私よりご挨拶申し上げます。今日はお忙しい中集まっただきありがとうございました。人づくりについては難しいテーマではありますが、大変重要なテーマでもあり、本日皆様から素晴らしい意見、提言をいただき、ありがとうございました。本日いただいた意見を踏まえて、これから開催する有識者懇話会において、有識者から直接意見、提言をもらい、人づくり推進方針の内容を検討していきたいと思っております。第2回目の人づくり会議では有識者懇話会での提言を報告し、人づくり推進方針の中間報告案を提示したいと思っております。是非令和という新しい時代の山口県ならではの人づくり推進方針を作っていきたいと考えているので、委員の皆様には引き続きご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

【北村部長】

以上で、第1回山口県新たな時代の人づくり会議を閉会します。本日はどうもありがとうございました。